資料紹介

称名寺聖教『往生礼讃光明抄』翻刻

佐竹真城

解題

本書は、神奈川県称名寺所蔵（神奈川県立金沢文庫管理）になる国宝称名寺聖教のうちの一書で、覚明房長西（一一八四―一二六六、以下長西と略称）の撰述である。

長西は、法然房源空（一一三三―一二一二、以下法然と略称）の門弟であり、後に九品寺流と呼ばれる一派を形成した。法然が、阿弥陀仏は本願に称名念仏による浄土往生を誓われたとして、称名念仏一行による救いを説いたのに対し、長西は、念仏以外の諸行も阿弥陀仏の本願に誓われた行であると主張したことから、その教学は諸行本願義と評され、法然門流においては異端視されてきた。[1] そして、そのような異端的立ち位置にあったことから、九品寺流は早い段階で廃れたと考えられてきた。しかし、如上の見解は、九品寺流外の諸師の所伝、すなわち第三者の説に依拠したものであり、信憑性という部分で問題がないわけではなかった。[2] それは偏に長西自身の著作のほとんどが散逸していたことに起因する。

その後、昭和初期に金沢文庫が調査された際に、長西の撰述を含む九品寺流の典籍が複数顕出されたのである。[3] このことは、長西をはじめとした九品寺流研究においては勿論、中世浄土教研究に大きな意味を持つものであった。しかし、顕出された史資料の貴重性および重要性は誰もが認識するところでありながらも、一部を除いて未翻刻のまま今日に至っており、本書もその未翻刻典

籍の一つである。

本書は、表紙中央に「往生礼讃光明抄三巻内第二自日没第三訖後序」との標題が記され、表紙右下には「湛睿」、表紙左下には「永源（花押）」とある。撰号を欠くものの、同じく「光明抄」と題する典籍を撰述していることや、説示内容の一致から、前述した如く長西の撰述と見て大過ない[4]。それを永源なる人物が書写し、華厳宗の僧にして称名寺の住持も務めた湛睿（たんえい）（一二七一―一三四七）が所持していた本であることが知られる。

内容は、書名が示すように、善導（六一三―六八一）撰『往生礼讃偈』（以下『礼讃』と略称）の文言に対して、「●●等事」と小分けにして見出しを立て、註釈を施したものである。称名寺聖教としては巻二と巻三の合冊本が伝存しているが、表紙には「三巻内」とあり、巻二の奥書には「礼讃三巻内第二」との一文を有することから、本来は三巻本であったことが分かる。所釈の文に目を向けると、巻二は日没讃（大経）の「礼讃阿弥陀仏十二光名求願往生一十九拝当日没時礼」（『大正蔵』巻四十七・四三九頁下）から中夜讃（十二礼）の「余悉同上法」（『大正蔵』巻四十七・四四三頁上）まで、巻三は後夜讃（願生偈）の「第四謹依天親菩薩願往生礼讃偈」（『大正蔵』巻四十七・四四三頁上）から後序（後述）の「既有此増上誓願可憑」（『大正蔵』巻四十七・四四八頁上）までが挙げられている。すなわち、六時の礼讃文から後序にかけて一通り註釈が施されていることが知られ、同時に巻一は前序の註釈であったことが窺える。なお、巻三は最後の註釈文が中途半端に途切れていることから、おそらく末尾の一、二丁あまりが欠失していると推察する。

本書の説示として特徴的なのは、たとえば、『観無量寿経』第九真身観所説の「念仏衆生」（『大正蔵』巻十二・三四三頁中）の念仏に、一向称名・一向観察・広亘三業という三つの理解があるとした上で観念と定義している（二十五丁左）点や、『阿弥陀経』所説の「執持名号」（『大正蔵』巻十二・三四七頁中）について、称名であることを述べながらも、三業にわたる念仏であることから観念に通じることも妨げない理解を示している（三十二丁左）点であり、これらの念仏理解は、長西の〈浄土疑芥〉[5]において一貫して示される理解と一致する。また、他の〈浄土疑芥〉同様、浄土宗鎮西義第三祖良忠（一一九九―一二八七）への影響も看取できる。すなわち、『往生礼讃私記』（以下『礼讃私記』と略称）には、本書からの転用が認められるのである。その他、本書の特徴的説示内容の詳細については、筆者の別稿[6]を参照されたい。なお、本書には、「私云」ではじまる私解が散見されるが、これは長西門弟の阿弥陀房の釈であると考えられている[7]。そして、その私解には、直前まで述べてきた義、すなわち長西義に対して「（此義）不爾」等と述べる否定的な見解も多く見られ、阿弥陀房の教学を知る上でも、長

西と門弟との関係を窺う上でも、大変に意義深いといえる。

本書の成立時期は、巻二に「文永五年八月十六日」との書写奥書を有していることから、一二六八年以前に遡ることができる。『礼讃』註釈書のうち成立の早いものとしては、良忠撰『礼讃私記』二巻（一二七六年頃成立）[8]や、浄土宗西山義の行観（一二四一―一三二五）撰『往生礼讃私記』三巻（一二九八年以降成立）[9]などが知られている。また、称名寺聖教のなかには良忠の『往生礼讃聞書』一巻[10]（以下『礼讃聞書』と略称）なる一書を確認でき、しかも康元元（一二五六）年の奥書[11]を有しているから、表面上は『礼讃聞書』が最古の『礼讃』註釈書であると見ることができる。しかし、書写奥書の年号をそのまま成立と目することは一概には首肯できないことと、称名寺聖教に含まれる良忠の『観経疏聞書』[12]には長西の『観経疏光明抄』の影響を看取できることが指摘されている点から、[13]『礼讃』註釈においても本書の成立の方が早いと考えることも可能であろう。両書の成立の前後に関しては、『聞書』の本文内容を踏まえた詳細な検討を要するものであり、今後の研究が待たれるところであるが、本書を現存最古級の『礼讃』註釈書と位置づけ、『礼讃』註釈史における最初期の撰述であるとする点に異論はないだろう。

如上、本書は長西研究のみならず、九品寺流研究という観点でも大いに活用されるべきであると考える。加えて、良忠撰『礼讃私記』への影響も看取できることから、[14]中世浄土教研究にも大きく資することができる史料であるといえるだろう。

なお、本書の装丁は綴葉装であり、本文は三十二丁（巻二：十三丁、巻三：十九丁）にわたる。ただし、本書の十六丁は他本からの混入であると考えられるから、[15]実際は三十一丁（巻二：十三丁、巻三：十八丁）となる。法量は、『称名寺聖教目録』（一〇五頁）によると、縦寸が十三・六糎、横寸が二十・七糎とあるが、筆者の測定では縦寸が二十八・六糎、横寸が二十・七糎であった。体裁は、半葉十二行、[16]一行二十八字内外である。

翻刻

【凡例】

①本翻刻は、称名寺聖教『往生礼讃光明抄』（神奈川県称名寺所蔵、神奈川県立金沢文庫管理［請求番号：94函3］）を翻刻したものである。

②漢字は新字の通行体に統一し、略字（合字）は正字に戻して翻刻した。

③各丁数の切替は〈　〉で括って示し、行取りは原本に準じて行頭に行数を記した。

④訓点・合符は原本に付されている通り翻刻したが、スペースに関しては必ずしも原本にはよらず、原則として見出しの前および問の前、科段の前等に適宜私的に付した。ただし、何れの場合も行頭には付さなかった。

⑤補記や訂記・抹消は本文に反映して翻刻した。ただし、複雑な入替指示等は、原本の状態を註に示した。

⑥翻刻に使用した各種記号が示す意味は次の通りである。

・「□」→湮滅（字数が判断できる場合は字数分を示し、字数が判断できない場合は「□…□」で示した）

・「……」→本文に付された省略符合箇所

⑦引用文については、管見の範囲で確認し得た出典を（　）内に割註で示した。

⑧写誤や脱字など、意味が通らない箇所が散見されるが、本翻刻では史料性に重点を置き、明らかな誤りと判断できた場合でも校訂はしなかった。

【表紙】

往生礼讃光明抄三巻内第二自日没第三訖後序

湛睿

永源（花押）

【本文】

〈一丁右（巻二）〉

01後夜　日没

02礼讃アミタ仏乃至日没時礼等事　疑云以日没ノヲ時ニ為六時ノ始ト有何意

　歟

03答日没ノ処所帰ノ日故也依観経ノ日想観等也　又礼讃ルヲ十二光名ヲ当ツル

04日没ノ時ニ有何意ニ歟答大経ノ上巻故カニルト為始ニ歟　取中下懺悔等事

05疑云中下者如何答要略広中ノニハカ要始カ故指シテ略広ニ云中下トニ也

06南无釈迦牟尼仏等一切三宝等事　疑云礼セ釈迦等□者豈不違无

07余之義ニ歟答非一時二時行法ニ故全不可違也　又礼者其相貌如何
08答礼者敬礼也倶舎（巻二九、『大正蔵』巻四一頁上・七頁中）云稽首接足故称敬礼文光記（『倶舎論記』巻一、『大正蔵』巻四一
　頁中）云稽之言
09至首之言頭以己之尊接仏之卑故称敬礼文
10微塵刹土中一切三宝等事　疑云上所礼中云一切三宝重挙之歟
11答上約釈迦一代化儀ニ今約尽十方別体三宝也　私云上約応身ニ今
12約報身ニ歟云々　又福田无量与功徳无窮ニ有差別ニ歟答无量約所礼ノ
　功徳

〈一丁左（巻二）〉

01无窮約能礼ノ功徳ニ歟　私云上限釈迦ノ一会ニ故只福田无量ト今通ス十方
02三世ニ故福田无量上ニ重テ云功徳无窮ニ也　一々舎利乃至解脱分善根等
　事
03疑云舎利者三宝中ニハ何摂歟答或摂仏宝ニ或摂法宝ニ也法事讃爾也
04或有所説経ノヲコト云舎利ト即宝筐印タラニ等也又ヒサ門天所持塔ニハル入仏
　舎利一
05此ヲハリコト有摂法宝ニ云々　又依テ今礼讃等行階ノ解脱分位ニ歟答不爾ニ只得ト
　解
06脱分ノ善根ニ云也即往生業成就也　尋云解脱分ノ位者何等歟答小乗ニハ
　五停
07心已上也大乗ニハ十位已上也倶舎論第十八（『大正蔵』巻二九・九八頁上）云若聞説テヲ生
　死有過涅槃有徳ト身ノ
08毛竪テ流涙当知殖リ解脱分ノ善取意倶舎頌疏卅三（『大正蔵』巻四一・九四六頁中）云又施一
　食ニ持テ一戒
09等深ク楽解脱ニ廻シテ求菩提ニ願力所持ヲ便名種殖順解脱分ヲ也有云依教ニ
　不
10定也知ハ涅槃徳ニ領解也起ハ愛楽解脱分也此即証浄ノ心也　問曰故号ア
　ミ
11タ……摂取不捨故名アミタ等事　尋云引テ観経ニ釈故名アミタト其
　意如何
12答同ク一仏ノ利益カ故小経可説摂取不捨ニ観経可説故名アミタトニ而ヲ二経ニ
　影

〈二丁右（巻二）〉

01略互顕也為顕此意以二経ニ釈得名之義ニ也付此注文ニ有五増上縁一
　ミタ
02経及観経云已下至故アミタ護念増上縁也正ハ摂取不捨即護念縁也
　二
03又釈迦仏及十方已下至定得往生ニ摂生々々々也正ハ命終之後定得往
　生即摂
04生縁也三如无量寿経説云已下至善心生焉ニ滅罪々々々也正ハ三垢消
　滅即
05滅罪縁也四若在三途已下至皆蒙解脱ニ見仏縁也正ハ見此光明即見仏
06縁也五无量寿仏光明顕赫已下至称其功徳ニ証生々々々也正ハ一切諸

仏

07声聞縁覚諸菩薩衆咸共歎誉前後如是即証生縁也総言仏言等一者

08皆証誠義也　唯観念仏一衆生等事　疑云経云照今云観同異如何

09答同也共見読也　如観経云一々光明遍照十方世界等事　疑云上挙今文

10何重引之一歎答上以光明釈名義今挙利益一也

11今既観経有如此不思議増上勝縁摂護行者等事　疑云四縁中増上縁歎

12答爾也四縁者一因縁二縁々三等无間縁四増上縁也等无間縁者前涅槃為

〈二丁左（巻二）〉

01後涅槃一成縁一也此相続也倶舎付増上縁一開有力増上縁无力増上縁也

02大乗云々順増上縁違増上縁一也　尋云此注意如何答釈十二光利益一也付利

03益釈五増上縁一也而引アミタ経一観経釈得名之由一也　尋云付観経文有五

04増上縁一者指何文一歎答地観文（『観経』、『大正蔵』巻一二・三四二頁上）云除八十億劫生死之罪一宝楼観（『観経』、『大正蔵』巻一二・三四二頁下）云除无

05量億劫極重悪業花座観（『観経』、『大正蔵』巻一二・三四三頁上）云滅除五万劫生死之罪像想観（『観経』、『大正蔵』巻一二・三四三頁中）云除

06无量億劫生死之罪一観音観（『観経』、『大正蔵』巻一二・三四四頁上）云浄除業障除无数劫生死之罪一

07勢至観（『観経』、『大正蔵』巻一二・三四四頁中）云除无量劫阿僧祇生死之罪一下品上生（『観経』、『大正蔵』巻一二・三四五頁下）云除五十億劫生死

08之罪一下品中生（『観経』、『大正蔵』巻一二・三四六頁上）云除八十億劫生死之罪一下品下生（『観経』、『大正蔵』巻一二・三四六頁上）云於念々中除八十億劫

09生死之罪流通分文（『観経』、『大正蔵』巻一二・三四六頁中）云但聞仏名二菩薩名除无量劫生死之罪一此等即

10滅罪増上縁也二真身観（『観経』、『大正蔵』巻一二・三四三頁中）云光明遍照十方世界念仏衆生摂取不

11捨普観（『観経』、『大正蔵』巻一二・三四四頁中）云无量寿仏化身无数与観世音大勢至常来至此行人之

12所流通分（『観経』、『大正蔵』巻一二・三四六頁中）云観世音菩薩為其勝友一此等即護念増上縁也三像想観（『観経』、『大正蔵』巻一二・三四三頁上）

〈三丁右（巻二）〉

01云見像坐已心眼得開一真身観（『観経』、『大正蔵』巻一二・三四三頁中）云見此事時即見十方一切諸仏一九品見

02来迎仏一此等見仏増上縁也地観（『観経』、『大正蔵』巻一二・三四二頁上）云捨身他世必生浄国心得无疑一宝

03楼観（『観経』、『大正蔵』巻一二・三四二頁下）云命終之後必生浄国一花座観（『観経』、『大正蔵』巻一二・三四三頁上）云必定当生極楽世界一真身

04観云（『観経』、『大正蔵』三四三頁下）捨身他世生諸仏前普観（『観経』、『大正蔵』三四四頁中）云当起自心
生於西方極楽世界雑想
05観（『観経』、『大正蔵』三四四頁中）云若欲至心生西方者九品文云皆云往生此等摂生増
上縁也処々仏
06告阿難井提希等者証生増上縁也此釈尊証誠也大仏頂経（巻五、『大正蔵』巻一九・一二八頁上意）云首楞厳経云
07十二光仏説十二仏一々仏一々出世一也真言経也真言四智説四仏一
釈論六
08知根説六如来一也　南无西方乃至アミタ仏等事　疑云上一礼畢何重
礼之歟
09答上為所礼境一也今為請二加備一也　哀愍覆護我等事　疑云為引
経文一
10為私偈頌一歟答勝鬘経文也曇鸞讃アミタ仏偈毎段一挙此文今依
11此也　尋云令法種増長者其義如何答上宮王疏（『勝鬘経義疏』、『大正』蔵巻五六・三頁中）云法
者法身也万善為種一
12共持花台授与行者等事　疑云共持之義如何答相従釈也例如天台
〈三丁左（巻二）〉
01釈（『観音義疏』巻上、『大正蔵』巻三四・九二頁中意）云妙音観音而来東方一也大智（『観経義疏』巻下、『大正蔵』巻三七・三〇一頁上意）
云観音勢至二菩薩持花台一来
02為報仏恩故等事　疑云可云二菩薩恩一何云仏恩一歟答爾也但仏恩
者
03事生悞歟故法成与少経蔵沽本无仏字一也　又或本无仏之字一何
04為正一歟答无仏之字一本正也　普為師僧父母及善知識等事　疑云
為
05師即僧為師与僧一歟答師即僧也　又師僧与善知識同異如何答異也
06師僧者教授也善知識者同法与外護一也　又三障者何等歟答煩悩業
苦也
07至心懺悔等事　疑云至心者心之分斉如何答至誠心也真心徹到分
也
08願滅一切諸罪根等事　疑云一切者文点如何答一苦也切遍也此人
師釈也
09又一切者何等歟答指上師僧父母等二云一切也故一切者約師僧等一
諸者約
10罪数也　自他安楽因等事　疑云安楽国土因歟答爾也　一切臨終
時等事
11疑云一切之言如何答如上指僧父母一等云一切一也　勝縁勝境等事
疑云
12縁与境有何別一歟答縁約顕知識等一境約冥聖衆等也有云縁者仏願
也
〈四丁右（巻二）〉
01観音勢至十方尊等事　疑云十方尊者誰歟答十方諸仏歟諸仏持
02八戒一者有臨終見願一等也釈迦爾也　仰願神光蒙授手等事　疑云

神

03光与授手之義如何答摂取行者一時放慈悲一者降伏悪縁時放威神光一

04也故今為滅諸障一放神光也授手者近付義也梵網経（『大正蔵』巻二四・一〇〇九頁下意）云

有人持戒諸

05仏授手文天台釈（『菩薩戒義疏』巻下、『大正蔵』巻四〇・五八〇頁上意）云隣釈云隣次一也真言授手者引

導云

06懺悔廻向発願已等事　疑云上来五行懺悔文段何云廻向発願等一歟

答以

07懺悔功廻向所求所一也此即懺悔助成也此五行共為滅罪一故猶懺悔

分也

08例如五海一也即如略懺悔也　次作梵一等事　疑云作梵之言者為生

後一歟

09答結前也説偈発願生後也　出宝性論等事　尋云論主誰人歟答

10仏滅後堅意菩薩作也訳者　又梵者何義歟答清浄義也滅罪垢故也

11律云懺浄一也　又或本云作梵竟何為正歟答作梵竟本可為正一也

12又有境本一此悪也　願得離垢眼等事　疑云離垢眼者何位所得歟答

〈四丁左（巻二）〉

01今不可約位一也只此滅罪見仏故云離垢眼也　礼懺已一切恭敬等事

02疑云発願也如何答従本意一也　又礼讃已前可用三礼一如何答爾也

但大

03唐習所作已後用三礼一也　帰仏得菩提道心恒不退等事　疑云道心

不

04退者能帰之所得歟所帰之仏徳歟答能帰之所得也　又此三帰者為

引

05経論証一為私解釈歟答六時礼懺儀経云大仏頂宗沙門作也一巻也帰仏得菩提道心

常

06不退ルサナ因帰法サハ若得大総持門ルサナ因帰僧息諍論同入和

合

07海ルサナ因文已上三帰智者大師在国清寺玉泉寺一出此文一浄土礼

文

08引導之釈一也　帰法サハ若得大総持門等事　疑云サハ若亦総持者

09意如何答サハ若者梵語此云智恵也云大者簡小乗一言也智恵既起

10持滅罪生善二一故云総持也又門者以智恵一為門一出生死一入涅槃城一

也

11帰僧息諍論同入和合海等事　疑云息諍者意如何答止我々所一无戯

12論諍論一故也和合者息諍故也四人已上和合僧也

〈五丁右（巻二）〉

01願諸衆生乃至一切賢聖等事　疑云上既云挙三帰畢何重勧三帰一歟答

02有云上挙法体今勧進之也仏教者仏宝法宝也賢聖者僧宝也有云

03発願也　尋云和南者何翻之一歟答玄惲毘尼討要（巻三、『卍続蔵』巻一）云和

南此翻度

04我一也或稽首義也和上者翻依学一依彼生恵一故十節云和上一也

05人間忽々営衆務等事　疑云四行偈者何経論文歟答初二行依坐
06禅三昧経歟彼経（『坐禅三昧経』巻上、『大正蔵』巻一五・二七〇頁上意）云今日営此業一明日造彼事一楽著
　不観苦不覚
07死賊至一忽々　営衆務一不覚日夜去一文次二行依双観経歟下巻（『大正蔵』巻一二・二七四頁上）云
08宜各勤精進　努力自求也依此二経取意私結給歟
09如灯風中滅難期等事　疑云滅難期者意如何答已消亦生事難期云
　也
10有云消難期一云也　忙々六道无定趣等事　尋云无定趣者意如何答
11廻六道一云不定一也　強健有力等事　疑云健有力者何等歟答若盛
　時云事也
12大荘厳論（『大荘厳論経』巻三、『大正蔵』巻四・二七一頁下）云盛年　无患時懈怠不精進一等意也　自
　策自励等事

〈五丁左（巻二）〉

01疑云策与励有何別歟答策身一励心□也　願弟子等乃至心不失念等事
02疑云上一既発願畢今何重発願歟答上別今総也　又顚倒与錯乱有
03何別歟答顚倒者僻見也錯乱者妄念也失念无記也　如入禅定聖
04衆現前等事　疑云如入禅定之義如何答身心快楽分斉喩也如感
05師釈（『群疑論』巻四、『大正蔵』巻四七・五一頁上）一者将命終位楽受　故身心快楽　如入三禅楽
　意取有云今師意不
06存捨受義一歟只始終楽受義歟　又今発願文者為依経論説為私
07解釈一歟答天台発願文在今文一　私云普賢願意也謂自願弟子等一
08至上品往生アミタ仏国一者願我臨欲命終時……即得往生安楽国
　（『般若訳華厳経』巻四〇、『大正蔵』巻一〇・八四八頁上）意也自
09到彼国已至々心帰命アミタ仏者我既往生彼国已……利楽一切衆
　生界（『般若訳華厳経』巻四〇、『大正蔵』巻一〇・八四八頁上）意也
10抑入仏道発願者必可依普賢願海一故也　煩悩深无底等事　疑云何
11経論文歟答阿蘭若習禅経文也　又此偈中无常之義不見如何
12答生死海无辺等者即无常義也　汝等勿抱臭屍臥等事　疑云何

〈六丁右（巻二）〉

01経論文歟答菩薩呵睡眠経文也大論引此経一菩薩呵睡眠弟子一云云
02有云在超日恵明経一云　又此偈中无常之義不見如何答説不浄相
03即无常境也　時光遷流転等事　疑云何経論文歟答菩薩蔵経文
04也　又時光者何等歟答時剋云光陰一昼陰无昼夜也此即陰陽也
05而今答自昼時一遷転至夜五更初一云也或時云風影亦云風光一也
06此昼夜総名也　忽至五更初等事　疑云指何時一云五更初一歟答寅
07終也彼北魏時一夜分五時一也顔氏云或同一夜何故更一云何所訓
08答曰漢魏以来謂甲夜乙夜丙夜丁夜戊夜又鼓一鼓二々三々四々
09五々亦云一更二々三々四々五々　皆以五節西都賊云衛　以厳更
　之署一
10所以爾者仮令正月建寅斗柄夕則指寅一暁則午一矣自寅一
11指午凡歴五辰冬夏之月雖復長短一参差然辰間闊　遼闊

12盈（クワフレハ）　不至六（ニハツヽムレハ）縮　不至四一進退常在五六之間　恒与死王居等事

〈六丁左（巻二）〉

01疑云死王者何等歟答无常（ニ）云死王一也馬頭羅刹経見（ニタリ）

02平旦偈等事　疑云点如何答難知但平者生也故云生旦事歟昼（ヲハ）云

生（トヒシクアクル）一

03夜（ヲハ）云死一故命塵（ニモノノ）始故云生旦（ト）歟　欲求寂滅等事　答僧祇律文也

04有云在十誦律（ニモ）也少門法者総（シテ）仏道行也（ノ）有云比丘造（ニ）舎度々偸国王

05瓦（ヲ）一所取一依之起道心唱此文一云々

06沙門法者顕揚大戒論第六（『大正蔵』巻七四・七二四頁下）云涅槃経邪正品云於仏法中

沙門法

07者応生悲心覆育衆生乃至蟻子応施（ス）无畏是沙門法遠離飲酒

08乃至嗅香（ヲ）一是沙門法（ナリ）不得妄語一乃至夢中（ニモ）不念妄語一是沙門法（リ）

09不生欲心一乃至夢中（ニモ）亦復如是々沙門法（文）　私云此経意者一者応

生悲心

10覆育衆生二者応施无畏三者遠離飲酒乃至嗅香四者不得妄語

11乃至夢中五者不生欲心乃至夢中已上五代是沙門法也制教六念者

12一者念知日月（某月若黒月若白月若大小）二者念知衣鉢（道具有无）三者念知夏臘（安居）

〈七丁右（巻二）〉

01（年数）四者念知食所（若伽藍若聚落）五者念同別食（若一人食若大衆人食）六者念身康羸（カウルイ）

02（□力堪不堪病患有无）　精麁随衆得等事　疑云随衆之義如何答随徒衆（テ）得之一不

03可住（ス）自由（ニ）云也　今日晨朝各誦六念等事　疑云為化教（ノ）六念（トヤ）為制

教（ノ）

04六念一歟答制教六念也此僧祇律文故也制教六念者第念正（知日月大小法）月大今朔

05（白月黒月）一日乃至三十日第一念今食（知食所法）僧常食无請所（為乞食若離主食若自若乞食随様可唱）第三

06念我於仁治三年十一月廿五日午初分一受菩薩大比丘戒我今无変若

一

07反随数可唱第四念我今三衣鉢具足（知衣鉢有无法）若有長衣鉢等一長未説浄

08過一日等可唱一若不具者随（テ）有一可唱第五念我今无（知別衆食法）別衆食縁一有

09縁者病若加□日等第六念我今无病依衆行道一若有病者我有

10病当療治（ト）可唱依討（タフ）要注（ス）之一已上六念出僧祇律一云々有云一念知日月

11二念知食法三念知戒臈四念知衣鉢五念知同別食六念知病患（取意）

12四分律比丘戒本疏（ニ）見歟四分比丘戒本疏末　玄奘弟子定賓疏□…□

〈七丁左（巻二）〉

01展転食戒篇之内釈（『四分比丘戒本疏』巻下、『大正蔵』巻四〇・四八三頁下―四八四頁上）云……古来行事之家於此

戒中一便解（ス）僧祇□念之義一

02准彼僧祇第十六巻義准（シテ）応云第一念此月（ノハ）大（ナリ）或白月（ナリ）或黒月一日（二三日等准数念）

此

03念（ノ）意言黒白総論（シテ）以弁大小（ヲ）一若論数日一随（テ）黒白中（ノニ）分一二等（ヲ）也第二

念

04准僧祇今日（ノ）所得一食施（ハス）某々甲（ニ）甲於我（テニ）一不（レハ）計（ハカラレ）一我当食（三説）旦僧祇（ノ）

05意者一日之中当（ニタテ）所得一食（ニ）一清旦預（ニメ）作説浄之法一心念口業施与（シテリ）五衆（ニ）

故

06 意我今日所得一食施某々甲々沙弥一々々於我不許謂沙弥於我不恪此食也施大歎与比丘准此説
07 我当食謂作食彼沙弥等食一直也准此一不実施与余々人々不赴檀越虚設不同此
08 律要実捨也准此律一念防不了故作念一時但欲境知応作捨浄□
09 故応念云第二念不肯請食至於中時一若有多請意欲背者別須
10 捨請一如前応知若有病縁応云第二念我有病縁応背請食一余
11 縁准此第三念某年歳次甲子乙丑尋之応知正月乙丑朔甲子等准知一日景
12 宣甲子等准知卯時一尺木二尺影受具足戒□未有夏子丑等時木影長短随時称之一々夏等亦准称之

〈八丁右（巻二）〉

01 若受戒時天陰无日一但云卯時初分受具足戒一中分後分亦准称之第四念三衣
02 鉢具足若闕者応云僧伽梨欝□羅僧已具安多一已受持若未受持一随未会未具我当具余衣及鉢随闕称之
03 受持我当受持余可准知長衣已説浄若一二段未説者云某衣未浄我当説浄余衣已説浄第五念不別衆食
04 或有別衆食縁一応云我有病縁応別衆食余縁准此称之第六念我今无病依衆行道若有病縁一応云我今有病当
05 療治初念為知説戒日時亦念无常日月遷謝厭離生死一第二念
06 防悩施主一第三念防高慢煩悩一亦防盗罪一第四念遵修別行一第

五

07 念遵和合行一第六念遵不放逸一衆行成弁准律背前一犯提一背
08 後一犯吉羅一謂若受十請一背第一請一於後九家一随受食者咽々
09 中間一犯一提八吉一由唯初家是其前請余之九家
10 悉是後故若背第二家一向初家一食咽々九吉文又誦之義如何答
11 誦六念文也向文一云読一不向一云誦一也又无常之義不見一如何答

六念初念

12 釈云四分比丘戒本□也（巻二、『大正蔵』巻四〇・四八四頁上）亦念无常一日月遷謝厭離生死一云総无存略□…□有也

〈八丁左（巻二）〉

01 人生不精進等事　疑云何経論文歟答尸迦羅衛経文也
02 初夜　第二沙門善導等事　疑云標宗一日没初夜共无善導
03 之言一相違如何答初夜偈終私釈流通文一故也初有私解也〔17〕
04 南无至心……アミタ仏等事　疑云南无者至心帰命義也何重言歟
答梵漢並
05 釈事常習歟　ミタ智願海……皆悉到彼国等事　疑云今智願
06 者総別中何歟答総別共並挙也但別願為面一歟　又聞名者称名歟
07 答不爾一只是聞教主名帰本願一也其上可有称名等一也　於此世界中
……
08 皆当得生彼等事　疑云此界往生菩薩数限只六十七億歟答不爾一只
09 是一往挙数分一也故異訳経云七百廿億等一也此約釈迦所化一歟　又
不退
10 者指何位一歟答位行念三不退共挙也　又小行并小福者分斉如何答
11 小行者未入不退十信菩薩也寂云小行菩薩已入十信熙連以上在
上輩
12 又已入不退菩薩願往生有何要一歟答此有二意一為趣下位一進上位一
也論注（巻下、『大正蔵』巻四〇・八四〇頁中）

13云未証浄心菩薩者初地已上七地已還諸菩薩也……此菩薩願生安
楽浄土即見
〈九丁右（巻二）〉
01アミタ仏□々々々時与上地諸菩薩一畢竟身等法等龍樹菩薩婆藪
頭菩薩年
02願生彼一者当為此一耳文一恐第七地大寂滅一故也同注下（『論註』、『大正蔵』巻四〇・八四〇頁中）
云問曰答曰菩薩於
03七地中一得大寂滅一上不見諸仏可求一下不見衆生可度一分捨仏道証
於
04実際一爾時不得十方諸神力加勧即便滅度与二乗一无異一菩薩若往
05生安楽一見アミタ仏一即无此難是故須言畢竟平等云々有於大聖往生
06有三義一一自熟二熟他三本縁云々此義未検本説也有云涌出品文句
云
07法性土菩薩来穢土一故自熟々他本縁云々新懐云自熟者応身熟他者
08報身本縁者法身也又法身般若解脱一取意若此意者浄穢相違
09一切諸菩薩……稽首ミタ尊等事　疑云此三行偈頌何事歟答頌見
仏供養
10益一於中一上二行明外事供養謂花宝香衣天楽等也下一行明内事
11供養謂上二句口嘆供養也浄影（『大経義疏』巻下、『大正』巻三七・一〇八頁中）云下利他中恵日照世
化人一生知恵
12能開暁照世如レ日教人一生解一名照世間一照除生死化人一離障生死
〈九丁左（巻二）〉
01覆障従喩一名雲一身敬可知一文　見彼厳浄□……願□国亦然等□
02疑云此一偈頌何事歟答遠（『大経義疏』巻下、『大正』巻三七・一〇八頁下）云見土求願文顕可知
又或本云无量□
03今云无上心何為正一歟答无上心可為正一歟有道理一故
04応時无量尊……踊躍大歓喜等事　疑云此二偈頌何事一歟答此ミタ
説法
05前相也遠（『大経義疏』巻下、『大正』巻三七・一〇八頁下）云ミタ如来現相発起文　又仏口光定益二
乗一歟而今云一切天人
06衆一相違如何答爾也但今於浄土仏一只自然嘆光従口一出也不可簡
大小一也
07口光益小乗一者於穢土仏一分別也有云今光従口一出説法前相表示也
08光従頂入大乗授記相也又花厳意仏光自頂一入自足一出授記取意
09又廻光者意如何答挙身光還廻身一故云廻光囲繞身一也
10梵声如雷震……吾悉知彼願等事　疑云梵声者意如何答論注上
（『大正蔵』巻四〇・八三〇頁上）云天竺一
11国称浄行為梵行一称妙辞一為梵言一彼国貴重梵天一多以梵為讃一
12亦言中国法与梵天一通故也故知是称美言也　八音者何等歟答遠
（『大経義疏』巻下、『大正』巻三七・一〇八頁下）云
〈十丁右（巻二）〉
01八種梵音如彼梵摩喩経中説一最妙声其声哀妙一易了声言辞

02弁了三調和声大小得中四柔濡声其声柔濡五不誤声言无錯失
03六不女声其雄朗七尊恵声言有威粛為世尊重有恵人声八深遠声
04其声深遠 猶如雷震 文 至彼厳浄国……受記成等覚等事 疑云
此一
05行偈頌何事歟答上二句挙神通益下二句挙授記益也
06奉事億如来……還到安養国等事 疑云此一行偈頌何事歟答供仏
起行
07之益也遠(『大経義疏』巻下、『大正』〇九頁上)云往彼広供多仏起行之益 文 已上十三行
偈約聖人往生
08挙諸仏共嘆也 若人无善本不得聞仏名難以信此法等事 疑云善
本
09者何等歟答善本者云善根事也根者本義故又云功徳事也善者功
也
10本者徳之義也 私云善本者戒也戒是万行地盤故々説清浄有戒
11者乃護聞正法 文 又寂云善本者持戒 文 香象梵網疏□云
12又挙无量本之義意如何答説此経難聞之由也遠(『大経義疏』巻下、『大正』〇九頁上)
云挙経難□□□
〈十丁左(巻二)〉
01修行 文 又(『大経義疏』巻下、『大正』〇九頁上)云初有半偈挙无善人不聞此経彰経深
重□ 又経云□□□
02釈云聞仏名相違如何答此経所詮名号也故釈聞仏名也委 如選択
03集又経云此経者約能詮釈云仏名者約所詮也又次下云此経住百
年等
04故无違 又挙憍慢等悪相有何意歟答此経深妙悪人不得聞称美
也
05故遠(『大経義疏』巻下、『大正』〇九頁上)云挙有悪人不信此法彰経深重 文 又憍慢等
一々名義如何答
06憍者自身奢也慢者偈他人也故倶舎(巻四、『大正蔵』巻二九・二頁中意?)云憍由自身
故慢対他身故 文
07又於慢有七慢九々倶舎頌(『倶舎論本頌』巻一、『大正』三八頁上)云七九従三皆通修断
文 謂先七慢者釈卑
08慢者一慢 実我勝他思勝慢也 二過慢 於他等思己勝慢也 三慢過慢 実我劣謂己勝慢也 四卑慢 我遙劣謂□劣
09慢也 五我慢 計我々所清浄有徳慢也 六邪慢 悪行无徳謂清浄有徳慢也 七増上慢 未得謂已得慢也 九慢依発智論
10大旨同七慢故略之云々 弊者六度裏也可知 懈怠者懶惰義也可知皆
11□煩悩也 宿世見諸仏……踊躍大歓喜等事 疑云見仏之時何不
得度
12歟答雖有見仏之縁解脱時未至歟此即種熟脱三時次第也
〈十一丁右(巻二)〉
01故大通結縁人于今流転歟 又見仏分斉如何 答慈恩云見仏有二
一正
02見生身二聞法名見仏 取意 又釈八難時正像末三時共云遠世事

03了義灯第一（巻七、『大正蔵』巻四三・八〇六頁上）云値仏者有仏教法一従他聴聞亦名値仏雖
有仏教一无人
04伝説名无仏世　又謙即敬歟答不爾謙与敬也謙下自身恭敬他
05人一云謙敬一也　其有得聞彼……真成報仏恩等事　疑云已下五行
偈頌釈
06経何文一歟答釈流通分文一也謂始一行釈自其有得聞至无上功徳之
07文上也第二一行釈自設有大火一至　後生疑或一之文上也第三一行釈
自当
08来之世一至皆可得度之文上也第四一行釈自如来興世一至諸婆羅蜜一
之文也
09第五一行釈自遇善知識至无過此難之文也　又満大十火一云何可通
之一歟
10答如此事即容有釈也只是釈悉之分斉一也
11中夜　十二礼訳者禅那崛多三蔵也
12第三謹依龍樹菩薩願往生礼讃等事　疑云龍樹者初地菩薩也何□
□□一
〈十一丁左（巻二）〉
01答自就就他本縁　三義故也曇鸞（『論註』巻下、『大正蔵』巻四〇・八四〇頁中意）云恐第七地大寂滅
故文□…□二一
02乗沈空一故也　又龍樹菩薩造弥勒十二礼爾者知足浄土中何為所
求□

03歟答以浄土為所求一也故楞伽経（『入楞伽経』巻九、『大正』巻一六・五六九頁上意）云妄覚非境界一於
有天国中一有徳
04比丘一名龍樹菩薩一能破有无見一為人一説我乗一々々内証智　往生安
楽国
05証得歓喜地文　又依龍樹者何不用十住婆娑論中弥陀偈一歟答十住
論
06因明也十二礼直弁也一巻文也　懺悔同前後等事　疑云初夜等前
後与
07今前後同異如何答異也　又発願等作法六時皆同歟答同也
08アミタ仙両足尊等事　疑云仙者何等歟答聖義也　奢摩他行如象
歩等
09事　疑云奢摩他者何翻之一歟答此云止也止者静義也
10声如天鼓倶翅羅等事　疑云天鼓者何等歟答天帝鼓也花厳経云
又
11倶翅羅者何翻之一歟答此云百舌鳥一也鶯　也光記（『倶舎論記』巻一、『大正蔵』巻四一・八頁上）云
舎利翻百舌鳥一文
12此不審也慈恩釈（『法華玄賛』巻一、『大正蔵』巻三四・六七〇頁中意）云百舌鳥者鶯　也文倶翅羅者涅
槃経文也枯木不栖一也
〈十二丁右（巻二）〉
01又取高声辺一歟答爾也有云共取高声弁説一同妙声　有説法能一
故文

02 観音頂戴冠中住等事　疑云観音頂戴ミタ歟爾者有何由一歟答
03 横川安楽谷明賢云円豪阿闍梨弟子也　明賢覚超之弟子也　ミタ有大威勢故頂戴一之降
04 伏外道魔王一例如云上宮太子戴　四天王一伏守室逆臣一云々天台釈
　帯果
05 而行レ因一也大智受之一観音往昔成仏時名正法明如来一故帯　昔果一
　今
06 行因一云々有云此釈意今戴ミタ一表昔果一也　无量諸魔常讃嘆等事
07 疑云諸魔何故讃ミタ一歟答被降伏一帰故也賢護分見　魔王讃ミタ一
　也
08 此有権実二義一権者第六天魔王也　為諸衆生願力住等事　疑云
　願力
09 住之義如何答依因位本願一住極楽一云也有云鬼神悩身心一魔王指現
10 当之益一也　為衆説法无名字　等事　疑云法体設雖空一何无名字
　仮相
11 歟答体空故无名字也　又无名字文点如何答如上左点大日房　読也
12 大乗論中法仏浄土諸法不立名字説法云　彼尊仏刹无悪名等事

〈十二丁左（巻二）〉

01 疑云設雖无其体一何无悪名字一歟答此体□離名□嫌也次□女人悪
02 道者離体機嫌也非説悪道等之言也　衆善无辺等事　疑云所□
03 衆善无辺者所礼仏所具衆善也能礼行者所得衆善歟答仏所
04 具也所獲善根者能礼所得故也　所獲善根等事　疑云所獲之功徳
05 者誰人所得歟答龍樹菩薩所得也　又此一行何无礼之義一歟答此廻
　向
06 句也十二礼者約多分一也又礼上廻向故也　至心懺悔乃至願滅除等事
07 答要略広三品者従狭至広歟爾者要者五行略者四行相違如何
08 答略懺悔之時五悔同名懺悔一也弘決（巻七之四、『大正蔵』巻四六・三八二頁中）云雖有勧請等四
　莫非懺悔故□
09 五悔文真言金剛界用五悔一胎蔵界用九方便一也　又无始受身之
　義
10 如何答迷真始云无始一也辟如車輪廻始一也有（『法華玄賛義疏新記』巻下、『続蔵』巻一・四七二頁下）云
　妄起无端故云无
11 始一輓然不覚故四无明一文十纏三纏云事在倶舎等一可見
12 恒以空恵照三界等事　疑云空恵照三界之義如何答対衆生実有

〈十三丁右（巻二）〉

01 見一諸仏以中道恵一照衆生迷倒一云也又一切智道種智一切種智如次
02 空仮中分量也今一切智也三慈悲中以空恵一照者大慈悲也三悲
03 者衆生縁遍計法界縁依他無縁円成也円成等者名三性也
04 歴劫已来懐嫉妬……梵焼智慧慈善根等事　尋云嫉妬者其形何
05 物歟答嫉妬者慳貪也未曾有経（巻下、『大正蔵』巻一七・五八一頁下）云不嫉妬一余経云不貪一
　六ハララ経（『六波羅蜜多経』巻五、『大正蔵』巻八・八七頁下）云
06 離貪嫉者見他尊貴多饒賊宝一起嫉妬心一故往生要集餓鬼道
07 終（巻上、『大正蔵』巻八四・三三頁中）云慳貪嫉妬者堕我鬼道一云々故嫉妬与慳貪一文異義同

也今即挙
08貪癡嗔三毒也　癡愛入胎獄等事　疑云胎獄者何等歟答在三界獄
09喩胎也此挙十二因縁也十二者无明行過去二因也識名色六入独
受
10現在五果也愛取有現在三因也生老死未来二果也　願捨胎蔵形等
事
11疑云胎蔵形者何等歟答次上入胎獄也此段当新訳花厳普賢十願也
12又上来五悔者為引経論文為私解釈歟答私云結偈也但十住婆娑論
弥
〈十三丁左（巻二）〉
01勒発願経弥勒所問経同之等有五悔文依此等結給也□□□大師ミタ讃終
引用
02之給也　余悉同上法等事　疑云余者何等歟答前後発願□三礼□
03但无常偈別也　又於此時中云同上等有何由乎答今略懺悔以五
悔之
04五段共名懺悔此即更余処故也　又或本无此五字邪正如何
05答有本善也
06文永五年八月十六日
07礼讃三巻内第二
〈十四丁右（巻三）〉
01後夜
02第四謹依天親菩薩願往生礼讃偈等事　疑云天親於都卒極楽共
03勧之爾者何為所求歟答極楽也注上釈　願生安楽国之句（『論註』、『大正蔵』巻四〇・八二六頁下）云生者天親
04菩薩願生彼安楽浄土如来浄花中生故曰願生有云此釈往生論作
05至故且与釈也余処云生知足也　又今此頌文依何経歟答論文幽也
06以論明之通申三経也其義明々也　又定散二門中勧何辺歟答
本
07論并注意定善也而今随宜転用為散善也
08世尊我一……与仏教相応等事　疑云此一行偈頌何事歟答於五念
門
09中頌礼拝讃嘆二門也謂帰命者礼拝門也尽十方等者讃嘆門也
10又讃嘆門如文爾也云无导光等故礼拝門来聞其義帰命者約意
11地礼拝者約身業故身意既別也而何以帰命云礼拝門歟答爾也
12但以義此為礼拝門也故論注上（『大正蔵』巻四〇・八二七頁上）云何以知帰命是礼拝龍
樹菩薩造アミ
〈十四丁左（巻三）〉
01夕如来讃或言稽首礼或言我帰命或言帰命礼……天親菩薩既願
往
02生豈容不礼故知帰命是礼拝然礼拝但是恭敬不必帰命
03々々必是礼拝　若以此推帰命為重申已心宜言帰命論解偈
04義汎談礼拝彼相成於義弥顕　又今略作願門有何意歟答

05論意合 安心起行立五念門一而今師意作願門者即三心也故安心
06別立 其外挙起行故也 又世尊者諸仏通号也爾今約何仏一歟答
07先挙本師釈迦也故論注上(『大正蔵』巻四〇八二七頁上)云世尊者諸仏通号也論 智一
則義无
08不 達一語 断一則習気无余一智断具足能利世間一為世尊重 故曰
09世尊一此言意帰釈迦如来何以得知下句言 我依修多羅一……若謂此
意遍
10告一諸仏一立亦復无嫌一云々 又一心者定散中何歟答散心也此即決
定一心也
11非入定一心一也 又一心者浅深分斉如何答勇猛強盛心也業事可成
12弁一故此即至誠心也 又於十二光中一殊挙无導光一有何意歟答雖十
〈十五丁右(巻三)〉
01二光共一体上異名一无導徳最勝故也今文挙二光也謂尽十方者
02无辺光也此即无辺无導二也 観彼世界相……広大无辺際等事
03疑云此一行偈頌何事歟答自下於五念門中一挙観察門也於中一有三一
一依
04報観自観彼世界相一至一切満足一十行是也二ミタ観自无量大宝王
至妙
05香等供養三行是也三菩薩観自安楽国浄浄至功徳大宝海二行是也
06而於一行上二句名荘厳清浄功徳成就意云清浄一者依正二報共清浄
也

07然而先始故約依報也下二句名荘厳量功徳々々意云極楽分量広大
无
08辺故也 正道大慈悲……如鏡日月輪等事 疑云此一行偈頌何事
歟
09答上二句名荘厳性功徳々々一意云依報荘厳併自ミタ如来因位万行
出世
10无漏善根之性一出生云也下二句名荘厳形相々々々意云極楽荘
厳
11形相有光明如日月輪云也 備諸珍宝性……明浄曜世間等事 疑
云此一
12行偈頌何事一歟答上二句名荘厳種々事々々々意云以泥土木右□
□
〈十五丁左(巻三)〉
01荘厳一以七珍宝一荘厳種々事一而自然 光明□照曜□色殊妙云也
02宝花千万種……宣吐妙法音等事 疑云已下三行偈頌何事歟答此
三
03行名荘厳三種々々々々謂始一行名荘厳水々々々々水荘厳故次一
行
04名荘厳地々々々々一地荘厳故後一行名荘厳虚空々々々々一空裏荘
厳
05故已上可知一梵声悟遠……法王善住持等事 疑云此一行偈頌何

事歟
06答上二句名荘厳妙声々々々々一意云国名極楽一人聞之二可発三欣楽
之心一故也
07論注上（『大正蔵』巻四〇・八三〇頁上）云声者名也名謂安楽土名経言若人但聞安楽浄
土之名一歟
08願往生一亦得レ如レ願此名悟物一之証也文義寂大経疏云ミタ十二
光名也
09次下云正覚アミタ一故云々下二句名荘厳主々々々々一意云ミタ如来
為極楽教
10主一住持国土故也　如□浄花衆……禅三昧為食等事　疑云此一行
偈頌何
11事歟答上二句名荘厳眷属々々々々一意云生彼土一者並自蓮花一化
12生故也注下（『論註』巻四〇・八三八頁中）云如来正覚浄花之所化生云々　又浄花衆
者意如何答自浄
〈十七丁右（巻三）〉
01花生人故従所生一云浄花衆也　又以花一名浄一事如何答ミタ如来浄
業
02所感花故　又正覚花者意如何答依如来正覚之功一此花出生故也下
二
03句名荘厳受用□□□々一意云極楽衆生不用段食一法味為食一住
我命一永
04劫故也　永雖身心悩……一切能満足等事　疑云此二行偈頌事歟
答始二
05句名荘厳无諸難々々々々一意云極楽衆生於身心一離苦得楽故也次
四句
06名荘厳大義門々々々々一意云大義門者云大乗一也　又極楽有声聞一
何云大乗
07界一歟答従本立名也故論注上（『大正蔵』巻四〇・八三〇頁下―八三一頁上）云以理一推之一安楽浄
土不応有二乗一何以
08言之一夫有病則有薬一理数之常也法花経云言釈迦牟尼如来以出
09五濁一故分一一為三浄土既非五濁一无三乗一明矣……阿羅漢既未得
一切解脱一
10必応有生一此人更不生三界々々外除浄土一更无生所一是知唯応於
浄土生一
11如言声聞者是他方声聞来生仍本名故称為声聞文　又等无譏嫌名
者意
12如何答等者注上（『論註』、『大正蔵』巻四〇・八三〇頁下）云皆是大乗一味平等一文同注（『論註』、『大正蔵』巻四〇・八三八頁中）下□等者平□一相故文譏嫌名
〈十七丁左（巻三）〉
01注下（『論註』、『大正蔵』巻四〇・八三八頁中）云体有三種一一者二乗人二者女人三者諸□不具
无此三過一故名□
02体譏嫌名亦三種非但无三体一乃至不聞二乗女人諸根不具三種名一

03故名離名譏嫌歟　又名者在体上一既云无体一何云无名一歟答爾也
但
04浄土雖无二乗等三体一約穢土一云名譏嫌一也故注上（『論註』、『大正蔵』巻四〇・八三二頁上）云
問曰名以召事一有事一
05乃有名一安楽国既无二乗女人根欠之事亦何須復言レ无一此三名一
耶
06答曰如軟心菩薩不甚勇猛一譏言中声聞上如人諂曲或復瘴弱
譏
07言一女人一……有如是等一根雖具足一而有譏嫌之名一是故須言一乃至
无名
08明浄土无一如是等与奪之名一文後二句名荘厳一切所求満足々
々々々一意云
09極楽衆生於一切所求事一无不満足一故也
10无量大宝王……色像超群生等事　疑云此一行偈頌何事歟答上二
句名
11荘厳座々々々々意云ミタ如来所座也如観経第七観一也義寂大経
疏意云
12大宝王者仏也仏宝□故云大宝王下二句名荘厳身業々々々々一意云
〈十八丁右（巻三）〉
01釈仏常光一尋一也　又於諸仏一常光一尋別縁光遍照也於ミタ照十
方

02界一无有間断一故云无辺一云不断而今云一尋一相違如何答私云今一
尋者雖
03例諸仏以義分一且釈常光分一也実不可有分限一或約応仏一釈一尋一
歟
04説卅二相等故　又一尋者其分量如何答此有異説一注上（『論註』、『大正蔵』巻四〇・八三二頁下―八三三頁上）云案此間詁
05訓一六尺曰尋一観无量寿経言……彼仏円光如百億三千大千世界訳
者
06以尋一而言何其晦乎里舎間人不簡一縦長短咸謂横舒二両手臂一
07為尋若訳者或取此類一用准アミタ如来舒臂一為言一故称一尋一
者円
08光亦応怪六十……由句一云々此釈意於ミタ光明説分限一円光也而
言一尋者
09円光也釈歟　天人不動衆……勝妙无過者等事　疑云此一行偈頌
何事歟
10答上二句名荘厳大衆々々々々一意云極楽菩薩不還二乗地云事一清
浄等者
11如穢土海中不留一死骸一極楽浄土无二乗死骸一云事也今死骸者二乗
12辟死骸一也此対菩薩一意也下二句名荘厳上首々々々々意云如須弥
山□一
〈十八丁左（巻三）〉

01[18]□切山中ニミタ如来於大衆中ニ仏是上首也ト云事也
02義寂大経疏意云今上首者観音勢至大経説有二菩薩
03最尊第一等ニ故　天人丈夫衆……妙香等供養等事　疑云此一行偈
頌何事ニ歟答上二句ハ名荘厳主々々々々ニ意
04云於正報中ニ為主ニ所ルト恭敬供養ニ云也下二句ハ極楽ノ菩薩往詣シテ他方ニ
供養ル
05諸仏ニ文也而ヲ今一向ニ付ミタニ致讃嘆ニ故以彼供養文ニ随宜転用シテ属シテ
弥
06□仏ニ釈也已上ノ三行ハ付テ仏ニ釈也　安楽国清浄……利益諸群生等事
疑云
07此一行偈頌何事ニ歟答上二句ハ於菩薩ノ四種ノ荘厳功徳成就ニ頌第一ノ功
徳ニ也
08无垢輪者大菩薩ノ説法也或仏ノ説法也无垢者清浄ノ義也下二ノ句ハ頌菩薩ノ
09四種ノ功徳ノ中第二ノ功徳ニ也菩薩利益ルニ衆生ニ十方ニ同時ニ周遍ル故云一念ニ
亦云一時ニ也
10讃仏諸功徳……功徳大宝海等事　疑云此一行偈頌何事歟答上二
句ハ頌菩薩ノ
11四種ノ功徳ノ中第三ノ功徳ニ也　又本論（『論註』巻上、『大正蔵』巻四〇・八三三頁下）ニ云讃諸仏等今（『浄土論』『大正蔵』巻一六・一三三頁中）云讃仏ト相違如何答論ハ
12約シ諸仏ニ今約スミタニ故云讃仏ニ也　又无有分別心者意如何答已上无
功

〈十九丁右（巻三）〉
01用ノ菩薩証カ寂滅平等理ニ故於善悪諸法ニ无彼此差別ノ心故云无有分別
02心ニ也注上（『論註』、『大正蔵』巻四〇・八三三頁中―下）云一切菩薩声聞……嘆ホムト穢ノ土如来大慈謙
忍不見仏土有ニト雑穢
03相ニ雖嘆ト浄土ノ如来ノ无量ノ荘厳ニ不見仏土ニ有ニ清浄相ニ何以故以諸法
等ニ
04故諸如来等之是故諸仏如来名為ヲ等覚ト若於仏土ニ起ハ優劣ノ心ニ仮使タトヒ供
05養トモ如来ヲニ非ニ法ノ供養ニ也文已上二行ハ付テ菩薩ニ釈也
06晨朝　第五謹依彦琮法師等事　疑云此師者隋唐両ノ彦
07琮ノ中ニハ何歟答隋彦琮也大宋高僧伝ニ其義顕明也鈔批ニ（『行事鈔批』巻五、『卍続蔵』巻四一・七三九頁下意）
云隋ノ
08彦琮唐ノ彦琮二人見トタリ大智ノ云隋ノ彦琮来テ唐代ニ翻訳トヘリ云ハ此悞歟
09芝園集ノ文也　当旦起アサヲキ時礼等事　疑云旦起之文点如何答如上有云
夜ノ未
10暁アケヲ時ヲ云平旦ト夜既ニタルヲ暁時ヲ云早旦ニ也　法蔵ノ因弥遠等事　疑云文点
如何
11答如上意云釈成道十劫ノ由ニ也有云深遠ト者讃嘆ノ義也……[19]　濁世ハ難還リ
入□
12事　疑云難者何等歟答八難也　浄土願逾マタクヨ深等事　疑云誰人願
歟
〈十九丁左（巻三）〉

01答行者願也有云ミタ願也　何当蒙授手一遂往生心等事　疑云此
二
02句其意如何答述作者本意一也如此一句云自言之詞一也　唯須十念心
□□
03疑云十念者為時節分斉一為念仏行相一歟答念仏也去行也
04已成窮理聖乃至等事　疑云窮理者自証化他中一何徳歟答自証也
05自受用身也　真有遍空威等事　疑云為内証　為外用一歟答内証也
06上句所証理也今句能証智也　在西時現小但是暫随機等事　疑云
07指六十万億等身量一云現小歟答爾也　又暫并機分斉如何答約
08内証不変一外用随宜云暫一也三常中一不断常也三常者一相続
09□常此応身也二不断常此報身也三凝然常此法身也機分斉者
10凡夫有相機也　宝手印恒分　等事　疑云手印者何等歟答仏御
手
11印文也非印相一也　又文点如何答如上其印文分明也云也
12光含法界団乃至定非難等事　疑云或本一云円一何為正一歟答団本可為
正一歟
〈二十丁右（巻三）〉
01含韻一故也意同也　又无縁者意如何答観経（『大正蔵』巻一二、三四三頁下）云以无縁慈
摂諸衆生一是也
02无縁者約仏智一有相者約機心一也　花随本心変等事　疑云文意如
何
03答随行者娑婆本心行浅深一有花開不開遅速一云也　宮移身一自安
等事
04尋云文点并意如何答如上花開後身安宮殿一云也　天香入遠風等事
05疑云天香者何等歟答空厳也遠風者風用力健性也
06正自往人希等事　疑云意如何答以自身一不可生云也有云本云止自一
有云
07止吉歟　宝殿逐身飛等事　尋云与上宮移身自安有何別一歟答上
08聖衆乗宮殿一也今宮殿随聖衆身飛云也　十劫道先成等事
09疑云先者意如何答口云先成道次国土建立次衆生摂引云也故云厳
10界引群萌一也　勇得早无邪等事　疑云邪者何等歟答注正定聚一
11无邪聚一云也有云非有縁地一者邪也云也　浄国无衰変一立古今然
等
12事　疑云无衰者指凝然常一歟答不爾一不断□□□今者十劫已来也
〈二十丁左（巻三）〉
01又指十劫已来云古今一歟答爾也　音楽八風宣□事　疑云八風者何
02等歟答云八方風一也諸師皆爾也闇師云風八徳也如大経一
03随意既開蓮等事　疑云為娑婆修業意為往生後益意一歟答生後
04意也既開蓮者至花開期一依大悲菩薩開花三昧一欲開一即開云也
05例如鳥卵欲出一時母破之一云々　坐花非一像等事　疑云坐花者能坐
所坐
06□何歟答能坐也　又像者訓読如何答如上有云形義也

07无灾由処静等事　疑云灾者何等歟答刀疾飢三灾也　又処静之義
08如何答静慮相応故无灾云也例如第四静慮无灾也
09来斯幾劫強等事　疑云強者訓読如何答宗密円覚経疏（『大蔵釈義鈔』巻七、『卍続蔵』巻九・六二四頁下意）云強者進
10釈又中同小時聖人実範執字事勤読也東宮切韻云強勧也云
11又即進之義云　光舒救毘舎等事　疑云毘舎者何事歟答毘舎離城
12現月蓋長者門闔給云也此請観音経時也　人去宝衣齎等事

〈二十一丁右（巻三）〉

01疑云人去者去字点如何答十誦律釈去者来也　六時聞鳥合四寸
02践花低等事　疑云聞鳥合之義如何答六時以鳥鳴分別之云也有云赤
03蓮開昼青蓮開夜云事也悲花経意歟天上以花開合分別昼
04夜也倶舎論意也　又四寸者有何由歟答人挙足高四寸也有云切利
05フタラク霊鷲山等践入四寸見　相看无不正等事　疑云文意
06如何答極楽所有一切物无不正云也　鳥花珠光転等事　疑云此句文
07点如何答如付　但忻行道易等事　疑云行道易者意如何答得生者
08可疾成仏果云也　珠色仍為水等事　疑云依何経釈此義歟答観経宝
09地観文也　金光即是台等事　疑云金光作台歟答爾也
10到時花自散等事　疑云到時者意如何答到六時々分云也　随願花還開等事
11疑云意如何答為供養分用時花両亦開之故云花還開也
12直心能向彼有善併須廻等事　疑云直心者三心中何心歟答至誠心也誠

〈二十一丁左（巻三）〉

01心為名利不曲故云直心也今挙初一摂後□也　旦莫論余願等事
02疑云旦者意如何答指一期云旦也有云旦者云先事也　又余者如何答都
03卒十方願也　風長是処請等事　疑云訓読如何答如上　口宣猶在定乃至
04発幾花聚等事　疑云口宣猶在定意如何答深位大士得□首楞厳
05定徳也浄名経（巻上、『大正蔵』巻一四・五三九頁下）云不起滅定現諸威儀不断煩悩而入涅槃文此意也　又聞名
06者聞観音名歟答爾也大乗荘厳法王経（巻二、『大正蔵』巻一〇・五三頁上意）云若人恒念大士名当得往
07生極楽界面見如来无量寿聴聞正法悟无生文　又花聚者何

等歟

08答来迎蓮台也西方便有一蓮生（『五会法事讃』巻本、『大正』巻四七・四八〇頁下）意也　侍座一金蓮
等事　疑云侍座
09者能所中何歟答所座也有云能坐也而座者悞也　得群非実鳥乃至
10会是戒香全等事　疑云勢至徳中挙鳥類天類戒香等事有
11何意歟答讃勢至徳次讃極楽事也例如法事讃観音讃次讃極
12楽也　又此時礼中別讃二菩薩有何意答引他釈故也智昇法師

〈二十二丁右（巻三）〉

01入蔵録集諸経礼讃儀今彦琮法師礼法皆戴下巻全如今也
02日中　第六沙門善導乃至謹依十六観等事　疑云既云十六観爾
03者今師意定散差別如何答已下三観自本定観故得定名下三輩
04依散善功見仏約之得観　称也観念法門（『大正蔵』巻四七・二六頁下）云又如観音
勢至普雑
05等観及下九品人起行乃至七日一日十声五声等命欲終時仏言願見
仏
06者乃至心口称念乃至来現行人見仏亦見聖衆等乃至故名見仏三昧増上
縁云
07故也例如下壊劫時衆生悪業障重者業力引置他力身中云善業者
08雖无修得之功皆得定心中生第四禅上也　私云此義不爾云々在別可
見
09尋云大小乗正相云三入定時不命終爾者今何故住三昧云往生歟

答

10爾也死士唯捨受云故但経云歓喜等倶経論説也其義難知
11有云大乗実説入禅時分命終也故天台大師臨終云坐禅而化也永
12観云命終在楽受如恵玉比丘云懐感（『群疑論』巻五、『大正』巻四七・五七頁下）云経歓喜者楽
受也約将命

〈二十二丁左（巻三）〉

01終時分説捨受者正命終時也取意此義善也又得求歓義但今師意
02楽受時分命終得給歟　懺悔同前後等事　疑云後者指何等歟答
03指広懺悔也　観彼ミタ極楽界等事　疑云此一段者十六観中何
観
04意如何答依大経意総標也意云今観経説相本願所成上行相也
05釈也　又冊八願者指双巻経歟爾者意如何答浄土三部経中大経
06以ミタ因位本願面説之観経以行者修因行相面説之アミタ
経以
07諸仏証誠面説之而今大経本願所成様先挙也故初観彼ミタ
08極楽界一句総標観経已下七句依大経意標之也
09此下荘厳七宝幢乃至三昧无為即涅槃等事　疑云此三段釈経何文歟
答第
10二水観三種荘厳也　又八種清風者何等歟答法聡記（『観経記』、『卍続蔵』巻二・二四九頁下意）
云風八徳也
11大智（『観経義疏』巻三七・二九二頁中意）云八方風也　又機音者何等歟答有機者器義

也故楽器各随其

12形出各々音云也有云観音以衆生三業為機口説悲花経衆生口為

〈二十三丁右（巻三）〉

01機時名観世音云　又余経身為機時名観世身意為機時名観

02世意嘉祥云観世口観世尊意故今機云機音也機者聖衆根機也

03天台普門品疏（『法華文句』巻〇下、『大正蔵』巻三四・一四五頁中―一四六頁上）云玄義音者機也機亦多人天機二

乗機菩薩機仏機乃至

04一口機応二意機応三身機応文　機音者機即音也此持業釈也

05又機音正受者為娑婆機音為浄土機音歟答娑婆機也今観成相故

也

06宗密円覚経疏（『大続』巻上之二、『卍続』巻九・三三九頁下）云不受諸受名正受文　意云不受苦楽

憂喜等也但此

07非今義也　又三昧无為即涅槃義如何答成正受位无所作云无為

也

08受定楽安楽故云涅槃也涅槃亦翻常楽也章安釈（『涅槃経玄義』巻上、『大正蔵』巻三八・三頁下意）

云涅槃有大中小所謂

09魚注水鳥遊林皆涅槃也　宝国宝林諸宝樹乃至塵沙仏刹現无辺等

事

10疑云此二段釈経何文歟答第四宝樹観文也　又経云樹高八千由旬

当卅一

11万里歟而何只云卅万歟答爾也今偈頌故従満数也一由旬卌里也

12又説无生者不見今経文如何答大経意也又口経有口義也　又色

千

〈二十三丁左（巻三）〉

01般者訓読如何答如上般若字己无読也又口云両般此云両方意

也

02尋云経只説諸天童子等今讃云化天童子等相違如何答爾也釈家

得

03意釈化天童子給也付此化義有三料簡一云示内証智恵浅深顕

04大小童子形也謂小二三歳大謂十五六等也二云為令人生愛示増欣

心上

05化現童子形也化者本无今有故云化歟此即仏善巧方便意也故曼

06荼羅般舟讃等顕童子形也但示白色童子由雖本願文云悉皆金

07色於金色内有青黄赤白四色而今白色初色始故顕白色童子也

08三云讃極楽処且対娑婆云如忉利天等故知付往生人初生時

分如穢

09土人可有童子形歟故般舟讃（『大正蔵』巻四七、四五一頁上）云化天童子无窮数悉是念

仏往生人

10化者是化生義歟又当麻曼荼羅下輩生織童子形也

11宝池宝岸宝金沙乃至努力翻迷還本家等事　疑云此一段釈経何文歟

12答第五宝池観文也　又宝羅宝網者其差別如何答羅者小羅也取鳥

〈二十四丁右（巻三）〉

01羅也網者大網也取魚一也外典云翔天一鳥以小羅一可取遊渕一魚以大
02網可収於龍不可取之一文此讃孔子一言也　又可云覩波聞楽何云聞
　波覩
03楽歟答余目一故見耳一余耳一故聞目一云事也意如波枕石口漱一云
04又還本家者意如何答娑婆必可捨一処浄土必可欣一処故云還本家
05也有云還理性一義也　一々金縄界道上乃至歎説三尊无有極等事　疑
　云
06此一段釈経何文一歟答第六宝楼観也　又他方菩薩乃至恭敬立者経一不
　見一
07如何答大経下（『大正蔵』巻一二、二七一頁下）云諸菩薩衆往詣无量寿仏所一恭敬供養乃至
　恭敬遶
08三匝稽首上礼无上尊一等上是也　又三尊者何等歟答ミタ観音勢至也
　有云
09三宝也　ミタ本願花王座乃至終時快楽如三昧等事　疑云此段釈経
　何
10文一歟　疑云一段釈経何文一歟答第七花座観文也　又花座観中一何
　挙
11正報一歟答観花座一本意為観正報一也第七第八両観文分明也故ミタ
12独坐已下三句釈第九観意一也付寸ミタ独坐□□六十万億等一也真
　形
〈二十四丁左（巻三）〉

01光明等者釈光明遍照等一也蒙光独等者釈摂取不捨一也昼夜六時
02等者釈修行相貌一也終時快楽等者釈得益相一歟又云ミタ独坐等者
03先指第七観往立空中仏一也経文彼仏者指空中仏一也　又光触者
04即摂取歟答別也　私云同也般舟讃（『大正蔵』巻四七、四五三頁中）云不為余縁一光普照
　一唯覓念仏
05往生人一故云々　又心不退分斉如何答昼夜六時専想念也　尋云釈
　三心
06当体一之処一既云自造罪退失一今云心不退一相違如何答付之一有三解一
07一凡夫光触異謂約凡夫過一云造罪一退失一凡夫退位故約光触徳一云
08心不退一仏力冥加故二定善散善異謂約定心徳一云心不退一悟无生一
　故
09約散心失一云造罪退失一未得无生一故三諸行念仏異謂約上六品余
10行一云造罪失一余行无摂取不捨益一故約念仏一云心不退一観称共有
　摂
11取不捨益一故有云仏第三義可為正歟云々有云第二義勝也悟无生一故
　也
12又摂取益尤在定善一而釈家亘称礼一也故約定善尤有道理也
〈二十五丁右（巻三）〉
01有人難凡夫光触異者一分有其謂一念仏諸行異者尤有道理一散善
02定善異者无其道理一其故既云蒙触者心不退一約光触一云不退一
03釈文分明也全不釈約心定散一此過分料簡也如何答此難勢一往爾也

04但子誦其文許不知其理一也大経等三部中何文有称名者云摂取一
之
05文上哉観経既十三観中第九観説念仏衆生摂取不捨一此即約定心之
06条尤勿論也而又蒙光触者心不退者讃花座観之処雖経文不見一
07釈家得意一釈ミタ独坐顕真形々々光明遍法界蒙光触者心不退也
08故知蒙光触者心不退者先約定々心者也再往必可亘称礼一故知定
09散異者可叶経釈意一也又今三心者先付九品散善行人一説之一又及自
10造罪退失也者約散心行人一釈之一也定散異旁有文証一有道理一哉有
何
11過失一歟　ミタ身心遍法界乃至風鈴楽響与文同等事　疑云此一段釈
経何文
12歟答第八金像観文也　又経云諸仏今云ミタ相違如何答自総一移
別一也
〈二十五丁左（巻三）〉
01経文明也　又依心起想表真容釈経何文一歟答是故汝等心想仏釈依
心
02起想一卅二相等釈表真容一也　又真容与宝像一歟答爾也真容者第九
03観也宝像者第八観也有云真者真身容者形像也西方要決釈住
04持三宝一（『大正蔵』巻四七一一〇九頁下―一一〇頁上）云但想尊容一当見真仏一文但今釈真容之宝
像云歟
05ミタ身色如金山乃至十地願行自然彰等事　疑云此一段釈経何文歟
答第九
06真身観也　又唯有念仏者唯有多義一今依何辺一歟答花厳有十重唯一
法
07相有五重唯雖然一今不可必配当彼唯一只是簡持義也謂付有二法一事二
08簡去一法一持取一法一義也懐感等釈唯之義一意爾也　尋云今念仏
者観
09称中何歟答付真身観念仏衆生文有三解一一々向称名念仏也二一
10向観察念仏也三広亘三業念仏一今云観念々仏也委在定善義抄一
11可見一云々三部経中称名本願文未見之観仏本願者尤観経第十三観
12分明者哉　又蒙光摂者為本願故一為念仏故歟答念仏故也念仏
〈二十六丁右（巻三）〉
01必行者三業親近仏一故為本願一也　又強者意如何答強縁云事此即
02釈三縁中増上縁也又念仏蒙光摂者釈親縁也又至西方者正釈
03増上縁也　尋云余処釈得生益一云入三賢一今云十地願行一意如何答
三賢
04約始一十地約終一也　私云ミタ身色如金山相好光明照十方所観境也唯有
念仏観仏
05念仏也蒙光摂観念利益也当知指唯有念仏也本願指第十三観然彼如来最願力故也最為強指有憶想者必得成就也
06十方如来舒舌証指小経恒沙諸仏証誠一也専称指小経一心不乱一也名一号指小経執持名号一也至西方指小経即得往生也
07以観念利益通称名一以名号証誠一通観念一釈也処々以観念利益文
08通称礼一此意也是以般舟讃（『大正蔵』巻四七・四五一頁）云或想或観除罪障皆是ミタ

本願力十

09方如来舒舌証定判九品得還帰一此証誠亘定散釈意也

10観音菩薩大慈悲乃至普摂有縁帰本国等事　疑云音捨菩提義出何経

論一□

11答涅槃経千手経等説過去名正宝明如来一也又悲花経（巻三、『大正蔵』巻三・一八六頁上）

説未来成仏可名

12普光功徳山王如来一取意　又六時観察者有何証歟答大論（『大智度論』巻二六、『大正蔵』巻二五・二四八頁上）云仏以仏眼

〈二十六丁左（巻三）〉

01一日一夜各三時観一切衆生誰可度者一无令失時文要集中引之　又

三輪

02者何等歟答観音三業也輪者破衆生惑業一故也輪者摧破義也

03勢至菩薩難思議乃至永絶胞胎証六通等事　疑云転蓬者何等歟答車

04異名也天台玄義（『法華玄義』巻七下、『大正蔵』巻三三・七七一頁下意）云蜘蛛引羅糸一是学結網一蓬飛廻

庭一依之造

05車一神皇帝浮一葉一見造船一奚一仲見転一飛蓬一造車一故云転蓬也文

06淮（クワイ人名也）南子聖人観転蓬一而為車一也文（文名也）管子曰无儀法一註或飛揺而无（処名也）

07所定謂之飛蓬也文　又胞胎者何等歟答三界獄也喩之胞胎一也

08正坐跏趺入三昧乃至円光化仏等前真等事　疑云此一段釈経何文歟

答

09普雑二観合釈也　又想心与乗念其差別如何答想心者能乗也証也

経（『観経』、『大正蔵』巻一二・三四四頁中）云

10生於西方等一故乗念者所乗也始也経（『観経』、『大正蔵』巻一二・三四四頁中）云当起自心等一故（依主釈也）

也　爾者又重観

11義如何答不堪上真身観一者為之一説雑観一故対真身云重也　……

大小身事

12又合普雑二観有何意歟答如次一依正想結観也而亦義勢少故也

〈二十七丁右（巻三）〉

01上輩上行乃至无為法性身等事　疑云断貪嗔之義如何答且制止現行

貪

02等一而云断一也　又五門者何等歟答上々三種業上中解第一義上下

発

03无上道心一云五門一也　又三因者何等歟答三心也　又相続者五門

具足

04相続歟答不爾機法共各別故也相続者无間長時義也　尋云或現大

05身何不戴之一歟答ミタ身量極无辺者第九真身観也指彼六十万億

06等之身一今説或現大身等一歟故不戴之一経（『観経』、『大正蔵』巻一二・三四四頁下）云アミタ仏

神通如意者指自受

07用者或現大身等者摂他受用身也一此可論義一具如雑想観料簡　又

08出六塵之義如何答色声等六境染能縁之心一故名六塵也離之一

故出六塵一

09云也　又一切往生之人皆即証法性身歟答爾也雖心有漏一依身无

漏色

10 蘊故也　中輩中行乃至小証真等事　疑云為説西方快楽因者説中下

11 者一歟爾者為上孝養父母為下説国土楽事歟答孝養父母也

12 私云不爾一快楽者国土楽事也因者ミタ願因也故般舟讃（『大正蔵』巻四七・四五五頁上）云為説極楽

〈二十七丁左（巻三）〉

01 ミタ願也　又直到者意如何答称美之言也小戒世善往生故　私云不

02 爾一准穢土一浄土一声聞置仏辺一意也　下輩下行乃至発菩提因等事疑云

03 十悪即貪嗔歟答不爾十悪所作貪嗔能作業与煩悩一也　又就今経一

04 无謗法往生之文一如何答大経意釈抑止門一故謗法可生一釈也　又謗法之

05 分斉如何答注上（『論註』、『大正蔵』巻四〇・八三四頁上―中）云経言五逆罪人堕アヒ大地獄中一具受一劫重苦一（大品経仏蔵経）

06 誹謗正法人堕アヒ大地獄中一此劫若尽復転至他方アヒ地獄中一如

07 是一展転逕百千アヒ大地獄仏不記得出時節一以誹謗正法罪極重一故

08 又正法者即是仏法此愚癡人既生誹謗一安有願生仏土一之理仮使

09 但貪彼土安楽一而願生一者亦如求非水一之氷一望无烟之火豈有得

10 理一問曰何等相是誹謗正法一答曰若言无仏无仏法一无菩薩一无菩薩法如是

11 等見若心自解若従他一受其心決定皆名誹謗一文　又急勧専称

12 彼仏名者三品中□何品意歟答不可分別一三品共可称名一故云　私云

〈二十八丁右（巻三）〉

01 不爾一下中散観也　尋云一念者為起行為時節念歟答共在散善抄

02 但云時尅一義吉也　西方極楽乃至不去待何時等事　疑云此一段釈何事

03 歟答付往生之後得益釈也初一段約修因一総標也中間約正去行之止観（『摩訶止観』巻九下、『大正』二六・二六頁上）云定心湛然無縁一無念一

04 相一頌也今約得益一総結歟　又会一枝者何等歟答如初禅有五枝一名一心支一文二

05 禅有中四枝等上猶有枝浅位也会一枝一者深位也此禅定最極也

06 有云分々可有枝一也初禅五支観二禅四支内浄喜楽一心三禅五支行捨念恵楽定

07 四禅四支一心行捨念捨旧訳云枝訳云支一也倶舎第廿八頌（『大正蔵』巻二九・一四六頁下）云静慮初五支尋

08 伺喜楽定　第二有四支一内浄喜楽定　捨念恵楽定　第四有四支一

09 捨念中受定云々答修得証性徳法身理仏也何仏不可分別一也

10 又心水沐身頂者意如何答受識灌頂之義也謂以前仏五瓶智水与

11ミタ无漏智水灌　法雲地菩薩頂ニ云也此借用世間之行也謂転輪王
12太子譲位ニ以四海水ニ灌頂ニ譲国ニ也是表譲四海ニ意上也　又与衣被

〈二十八丁左（巻三）〉

01者意如何答モテナス儀式也　又遊法界者意如何答遊ニ歴十方ニ義
也
02又号无為者意如何答離迷倒所作ニ安楽故云无為歟　又或本加
一
03句何為正ニ歴答无本善也初二句総標故也一句者ミタ願力能所成歟
此
04上人言也　観音勢至乃至大海衆等事　疑云今合二菩薩礼之ニ有何
由ニ歴
05答経既於相好ニ説相従ニ故也有云上委故今略歟
06上二品懺悔発願等同前等事　疑云発願等者指何等歴答礼懺諸功
徳（従此懺悔来意也）
07等已下也等者向内等也　須要中要取初等事　疑云一云有単要単
略等
08懺悔歴答今釈意不可有ニ也総不可有ニ歴　其広者就実心願生者而
09勧等事　疑云要略二云不実者ニ歴答不爾ニ今勧広ニ故且奪釈也
10有云有二意歴謂一云広者懺悔手本也故用要略ニ時意地以広意ニ可
11懺悔ニ也二云既発至誠懺悔心者必不倦ニ好広故也已起懺悔心者可
具此

12二ニ也　或対四衆或対十方仏等事　疑云望何文ニ云或対等ニ歴答必
无

〈二十九丁右（巻三）〉

01所対ニ置或之言ニ常習也　私云不爾或重々故　又四衆者何等歴答
指四人
02已上和合僧ニ云四衆ニ歴有云一対衆懺滅破戒罪ニ二取相懺滅懺悪業
道
03三无生懺滅煩悩道ニ也対四人已上ニ云大衆懺ニ対二三人ニ云衆法
懺ニ亦云少衆
04懺ニ也対一人ニ云但対懺亦云対衆懺也一身懺ニ云独自懺ニ也
05又向十方尽虚空三宝等事　疑云上既対十方仏ニ何重云又向十方ニ
歴答上
06為致懺悔ニ挙所対境ニ也今挙造罪所縁境ニ也
07久種解脱分善根乃至不惜身命等事　疑云解脱分善根者分斉如何答
08小乗五停心大乗十信也倶舎十八（『大正蔵』巻二九・九八頁上）ニ云若聞説ニ生死有過ニ
涅槃有徳ニ身毛
09堅ニ流涙当知殖解脱分善ニ取意　又敬法重人者意如何答法者教法
10也人者諸仏衆生也即懺悔境也　又不惜身命者分斉如何答摧骨
11髄ニ不顧ニ等也　縦使日夜乃至若不作者等事　疑云十二時急走程者
12何无懺悔心ニ歴答爾也只是无釈也　又設雖不如法懺悔ニ何无随分
之

〈二十九丁左（巻三）〉

01 益一歟答爾也　但能真心徹到者即与上同等事　疑云真心徹到之分
02 斉如何答不惜身命等也答不惜身命等也此至誠心也玉云至者
03 極也大也達也故四分律文云此是至誠懺悔庭　又云此真実懺悔
04 庭　又上三品懺悔至誠心懺悔歟然今云至誠心者上勝此一心懺悔
　歟
05 答同心分斉一約外相一分別也　尋云外相有流血等別一依心浅深一歟
06 而何云同心分斉一約外相一分別歟答上釈既云此三品雖有差別一久種
07 解脱分之善根人一故知内心雖等一約久近差別一有外相不同一也例如
08 書文字点画一顕義理一事雖无差別有手返有中善悪上此則依
09 筆功久近一也　又此懺悔義依何経論一歟答依大乗方広懺悔滅罪経
　決
10 定毘尼経等説一歟　又依律蔵一菩薩善生経云方等タラニ経也
11 広懺悔　敬白十方乃至現前大衆等々事　疑云今諸仏及衆
12 生者□所挙一所対所縁中何歟答所縁也有云共也

〈三十丁右（巻三）〉

01 无始已来乃至両舌闘乱破壊等事　疑云今所懺罪状挙十悪業一歟
02 爾者何不挙意三一歟答意三煩悩道也此以无生懺悔一可滅一也故今
03 有相懺悔故只挙業道許一也　或破五戒乃至威儀戒等々事　尋云今
04 所挙一一々戒相如何答五戒者一不殺生二不与取三不欲邪行四不虚
　誑
05 語五飲酒也八戒者五戒上加不塗飾香鬘歌舞視聴第六不眠座高
06 座厳麗床座第七不非時食第八也已上二十戒者前五戒上亦加不塗飾香
　鬘
07 第六不歌舞視聴第七不眠座高座厳麗床座第八不非時食第九不畜金銀等
　宝蔵第十也
08 已上出家沙弥戒也十善戒者仏出世已前輪王等制戒世善也今仏是制也二百五十
09 戒者出家大比丘戒也此具持故名具足戒一也已上六皆小乗戒也三
　聚
10 戒者一摂律儀戒二摂善法戒三饒益有情戒也瓔珞経説也十无尽戒者梵
11 網瓔珞所説重禁戒也菩薩発菩提心一期尽未来際一故心无尽戒亦
　无
12 尽也此非小乗尽形寿一意也一切戒者四十八軽等也已上三皆大乗戒
　也

〈三十丁左（巻三）〉

01 威儀戒者小乗三千威儀大乗八万納行也等者向内等也
02 亦如十方大地无辺乃至亦復无辺等事　疑云自一切三宝至自作教
　他見
03 作随喜与今一有何別一歟答上挙所造罪縁一今挙辟顕能造過失多小一
　也
04 又今重々所挙一大地无辺等者法喩何合之一歟答大地已下辟也虚空
　已下

05法也謂虚空者広挙三宝及衆生所住処也上云又向十方尽虚空
06等是也方便者作罪加行也法性者挙能作心品広也衆生心広大
故
07衆多罪又趣向无上菩提也玄義分（『大正蔵』巻三七、二四六頁上意）云真如広大乃至法性
无辺等是其義也
08私云法性者真如法性也意云法性一理成无辺諸法故所縁境広多
能
09縁心作无量罪云也法界者亦三宝及衆生所住処也上虚空者総挙
10広大之辺今法界者別挙各々住処也衆生三宝戒品三正挙所化境
也
11上至諸菩薩乃至罪之多小等事　疑云罪数多少上既約能所二重挙
之
12何重又云罪之多少歟答爾也但上別々挙之今総結罪数　今於三
宝

〈三十一丁右（巻三）〉

01前乃至帰命アミタ仏等事　疑云自此已下文相起尽如何答自今於三
宝前至
02不敢覆蔵者向作罪境界顕懺心分斉也自唯願十方至憶我清浄
03者対敬上之境請加被也自始従今日至アミタ仏国者対慈下之
境発
04慈願也自乃至成仏至更不敢作者総結上来懺悔分斉也
05若入観及睡眠時応発此願等事　疑云入観者是入定之義歟答
06爾也　或有正発願乃至時得見等事　疑云発願時分即是散心歟何
07見仏歟答対睡眠三昧時云発願也故上云入観及睡眠也住定心
可
08見仏也　尋云此段本意往生与見仏中何為本歟答往生為本
事勿論
09也然而今殊見仏為本也其故於一心称念求願往生行者挙有五
増
10上縁也謂若称アミタ仏一声已下挙滅罪増上縁也十往生経云已
下挙
11護念増上縁也又如无量寿経云已下挙摂生増上縁也又如ミタ経云
已
12下挙証生増上縁也　尋云如観念法門者見仏縁第三也又道理
滅罪

〈三十一丁左（巻三）〉

01護念後可見仏如何答次第尤可爾但今意存冥顕差別也謂見
02仏者顕益故先挙之也余四冥益故後挙之也
03若称アミタ仏乃至已下亦如是等事　尋云既礼念已下亦如是爾者
04雖无心念可得滅罪等益歟答不爾意地必具三心為之安心其
上
05作称礼等行可有益也称念礼観等者安心上去行三業行也　疑云

十

06往生経中不見廿五菩薩名如何答爾也指同聞衆廿五人菩薩等也
又彼仏
07即遣者釈迦ミタ中何歟答彼経意釈迦也故観念法門（『大正蔵』巻四七・二五頁中）云
仏告山海
08恵菩薩及以阿難若有人専念西方アミタ仏願往生者我従今已
去常
09使廿五菩薩影護行者文　又如无量寿経云乃至必得往生等事　疑云
称
10我名号者釈経何句歟答乃至十念句也謂先標称我号次乃至
11釈下至十念釈十声也　又至心信楽欲生我国句何不釈之歟答
12自上古至于今論師人師総於安心不存異義也故今略之也於
起

〈三十二丁右（巻三）〉

01行有諸行有念仏於念仏亦有定有散故今首異定観釈出散称也
02有云称我名号者ナモアミタ仏也此可有安心起行也　尋云彼仏今
現已下
03釈意如何答釈定往生相貌也諸仏本懐顕此釈行者得益以之定也
04此即三経一論大旨也　成仏已来凡歴千劫等意也
05若有衆生……執持名号等事　尋云執持名号者観称中何歟答不及
06疑慮称名也爰以諸師一同釈称名也　難云経上文説光明无量寿
07命故名アミタ指彼云聞アミタ仏歟若爾仮名論自性道理観光
08明等之功徳故云執持名号歟孤山智円（『小経疏』巻三七・三五頁下）正釈執持一
字云信力故執
09受念力故住持全不云称名若爾正観念為本傍通称名歟
10何偏云称名歟答一往此難来只云執持不云称名故然而持者行
11義也持行名号者必称為地体也其上通観讃事不遮也
12自本仏経多含可亘三業故倶舎等性相云名句文身依声仮立

〈三十二丁左（巻三）〉

01故知執持名号尤可称名也爰以永観十因（『大正蔵』巻八四・九七頁上）引依声仮立文
02証称名義也今所引文云名句文身者名句文別也身者総也故影
03疏等釈此文時名身句身文身身通用上三也
04若七日及一日乃至故名護念経等事　疑云一念者心念口称中何歟
05答心念也不及異儀也　又行願中何摂歟答安心上去行也　又証
誠
06与護念同異如何答同也今釈分明也又加持加備摂取摂受証誠
07護念此等言異意同也而今釈証誠之面也　尋云若爾何観念法
08門護縁不引之歟答爾也但雖同意護念縁正身来守護念縁
09正身来守護随逐云護念也証生縁為証誠守護云護念也
10次下文云乃至之所護念等事　疑云就護念義釈二種義歟答爾也上釈
護念
11即証誠之義今正釈護念行者之様上也此即一法二義也

12今既有此増上誓願可憑等事　疑云増上者三縁中増上縁歟答不

（以下欠失）

付記：小論は、公益財団法人三菱財団の第四十八回（二〇一九年度）人文科学研究助成ならびに本願寺派教学助成財団の平成三十年度助成による成果の一部である。また、小論の執筆にあたり、金沢文庫御当局には格別の御高配を賜りました。衷心より感謝申し上げます。そして、本願寺派史料研究所研究員の岡村喜史先生には、翻刻にあたって貴重な御助言を賜りました。重ねて御礼申し上げます。

注

（1）たとえば、十四世紀前半に制作された『法然上人行状絵図』巻四十八には、

覚明房長西は、上人没後に出雲路の住心房に依止し、諸行本願のむねを執して選択集に違背す。この〔行空・幸西・長西の〕三人、随分名誉の仁たりといへども上人の冥慮はかりがたきによりて、門弟の列にのせざるところなり。見ん人あやしむことなかれ。

（井川定慶『法然上人伝全集』、三一八頁上、※〔　〕内・傍線は筆者註）

とあり、名誉の人ではあるものの、諸行本願義を説いて『選択集』の義に背いたことから、すでに法然の門弟から除外されていることが知られる。また、石田充之博士は、「法然の廃捨した諸行を本願行と主張した人として特に注目せられている」（『日本浄土教の研究』、百華苑、一九五二年、二九七頁　※傍線は筆者註）や、「聖道に対し浄土一宗の独立の旗幟を鮮明にせる法然上人が、諸行念仏と対立せしめ、廃立の区別を明確にせられたるに対し、再びその諸行を立てて本願の行と強調せられるだけ、その主張は所謂聖道門的であり自力高調的である」（『法然上人門下の浄土教学の研究』巻下、大東出版社、一九七九年、一七二頁　※傍線は筆者註）等と評し、安井広度博士は、「彼が種々に苦心して諸行非本願義の会通につとめたことや、又生涯諸行本願義の宣布につとめたらしい形跡を顧みるとき、彼自らが果して念仏行者であったかどうかが怪まれるのであって」（『法然門下の教学』、法蔵館、一九三八年〔一九六八年複刊〕、六十頁　※傍線は筆者註）等と評している。

（2）古来からの長西評価が第三者の説に依拠していることや、その第三者の説の信憑性に問題があることについては、拙稿「『浄土法門源流章』所説の長西教義考――「浄土疑芥」との比較を通して」（『仏教学研究』七十三号、二〇一七年）、拙稿「長西教学に関する一試論――法然聖人門流における邪義・異端評価の成立背景」（『中央仏教学院紀要』二十八号、二〇一七年）を参照されたい。

（3）金沢文庫より顕出された長西および九品寺流の典籍については、塚本善隆『金沢文庫所蔵浄土宗学上の未伝稀覯の鎌倉古鈔本』（大正大学浄土学研究会、一九三三年）や、前掲の石田博士の二書あるいは安井博士前掲書、吉田淳雄「長西の著作について」（『仏教論叢』四十四号、二〇〇〇年）、拙稿「長西の「諸行本願義」考――「浄土疑芥」を通しての再検討」（『宗学院論集』八十八号、二〇一六年）等を参照されたい。

（4）撰号を欠いているため、厳密には撰者が詳らかでない。しかし、金沢文庫には、永源書写・湛睿所持になる『観経疏光明抄』という長西撰述書が伝存している。この点に鑑みて、顕出以来、長西の撰述と推定されてきた。筆者は、後述する本書所説の思想が、他の長西撰述に見られる特徴と一致することから、長西撰述で確定できると考えている。詳細は拙稿「称名寺聖教『往生礼讃光明抄』について」（『仏教学研究』七十六号、二〇二〇年）を参照されたい。

（5）筆者は、金沢文庫所蔵の長西撰述書の総称として〈浄土疑芥〉という表記を用いる。〈浄土疑芥〉に含まれる個々の典籍や概要については、前掲拙稿（二〇一六年）、七―八頁を参照。

（6）前掲拙稿（二〇一六年）を参照されたい。

（7）岸章二「金沢文庫所蔵観経疏光明抄（玄七第五）（？）と同（序三第一）の本文及びその解説と光明抄研究の一問題」（大谷派本願寺宗学院宗学研究会編『宗学研究』十一号、一九三五年）、一七一頁、安井博士前掲書、三十七頁。

（8）『浄土宗大辞典』巻一（山喜房仏書林、一九七四年）、一六三頁には次の如く解説されている。

一二七六年（建治二）ごろ京洛滞在中に『法事讃』『観念法門』の私記とともにこの書も撰述したと言われているが明らかでない。しかし、具疏相互の譲釈から見て、この書が『法事讃』『般舟讃』の両私記より先の著作であることがわかる。

（9）『新纂浄土宗大辞典』（浄土宗、二〇一六年）、一七六頁。

（10）請求番号：九十六―一。

（11）四十六丁左。

（12）請求番号：九十八―二（序分義）、九十八―八・一～三（定善義）、九十八―九・一～三（玄義分）。

（13）廣川堯敏「金沢文庫本『観経疏聞書』と『光明抄』――良忠教学の思想基盤」（『浄土宗学研究』十八号、一九九二年）を参照されたい。

（14）前掲拙稿（二〇一二〇年）に数例を紹介しているので参照されたい。

（15）十六丁には、「八梵者是八解脱也」から始まる八行に亘る文言を確認できるが、次の問題を指摘できる。すなわち、①直前までの文章とつながらない上に所釈の「八梵」は『礼讃』不出の文言であること、②直前までの文章は十七丁につながること、③明らかに別筆であること、④裏打ちの紙と原紙のサイズが合っていないこと、という四点である。これらの問題点に鑑みれば、十六丁は修理の際に混入したものと考えられるため、混乱を避けるために翻刻しなかった。

（16）原則として、半葉十二行書きの体裁をとるが、八丁左のみ十三行書きとなっている。

（17）「也」の下に「南」の三画目までが書かれているが、次の文章を下に続けるか次行に移るかの判断に迷い、途中まで書きながらも次行に書き直したものと考えられるため、無視した。

（18）十八丁左01―03は、原本では以下の如く記されるのを、入替符号と線で入替指示あり。便宜上丸数字で入替指示箇所を示した（丸数字は挿入符号箇所、黒丸数字は丸数字へ線が延びている箇所を意味する）。

01切山中ニ一ミタ如来於大衆中ノニ一仏ハ是上首也トト云事也義寂大経疏意云今上❶

02❷天人丈夫衆……妙香等供養等事　①首者観音勢至大経説有二菩薩

03最尊第一等一故　②疑云此一行偈頌何事一歟答上二句ハ名荘厳主々々々

々一意

（19）原本には中略符号が記されているが、不自然である。十九丁左の01「何当蒙授手一遂往生心等事」は、『礼讃』本文と照合した際、所釈の順番が前後していることが分かるので、入替を指示する符号かもしれない。しかしながら、指示線は確認できないので、現状は原本通りの順番とし、中略符号として翻刻した。